

教職員アンケートの結果

「より前向きに、軽やかに働ける学校づくり」に向けた教職員アンケート

実施概要

実施期間	令和7年11月10日（月）～11月20日（木）
告知方法	各学校への依頼文送付（総合教育会議の概要添付）
回答方法	Office365 formsによる「電子回答」
対象者	市立小中学校の教職員（再任用職員を含む） 約700人
回答形式	選択式、一部設問は自由記述



回答状況 (回答数:502)

校種別	小学校:320		中学校:182		
職種別	校長:23	教頭:25	教諭・講師:433		事務職員:21
年代別	20代:84	30代:141	40代:103	50代:84	60代:42

設問概要

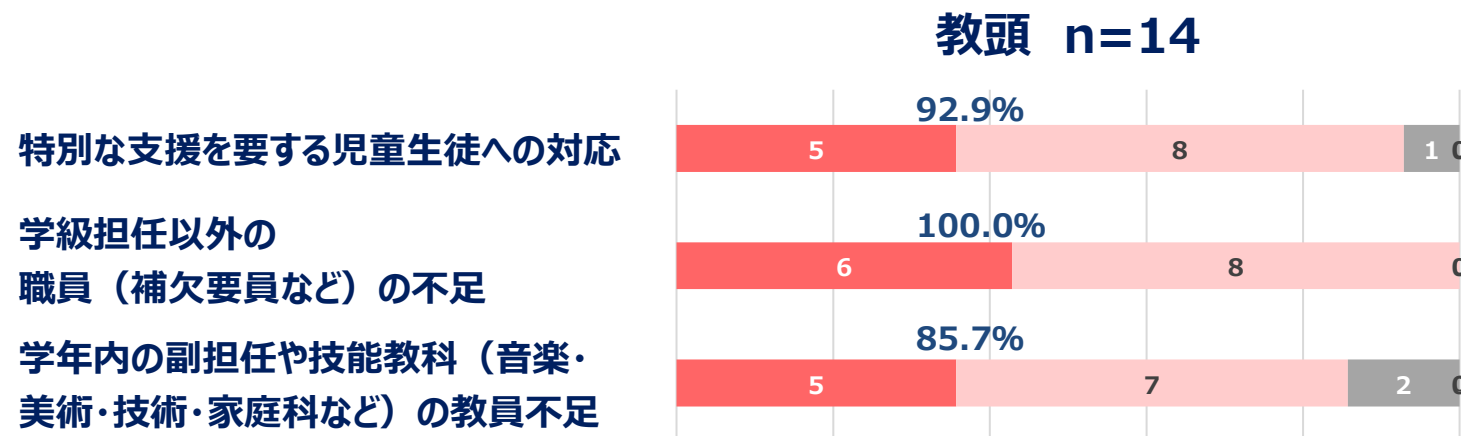
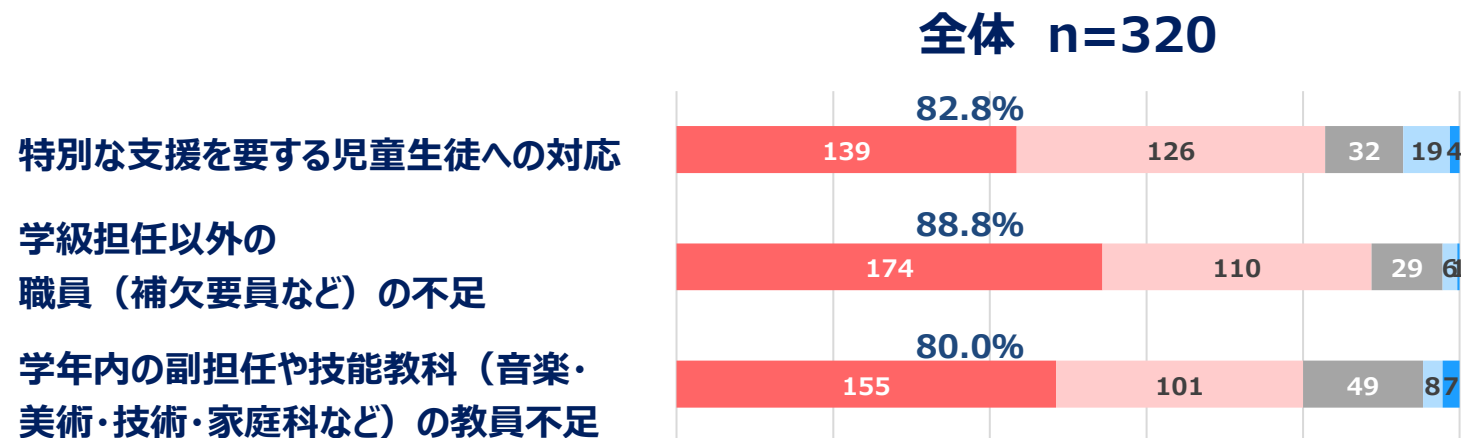
回答者について	学校種	小学校、中学校
	職種	校長、教頭、教諭等、事務職員、講師
	年代（教諭等、事務職員、講師を選んだ方）	20代、30代、40代、50代、60代、70代
現状と課題	1 人員体制に関すること	5 段階評価 1.とても負担（課題）になっている 2.ある程度負担（課題）になっている 3.どちらとも言えない 4.あまり負担（課題）になっていない 5.負担（課題）になっていない
	2 業務・勤務時間の適正化に関すること	
	3 指導業務の改善に関すること	
	4 専門性と協働の推進に関すること	
	5 働きやすい環境づくりに関すること	
	6 その他、特に負担・課題を感じていること等	自由記述
取組の方向性	7 人員体制に関すること	選択式 （それぞれ最大3つまで） その他、選んだ理由等の自由記述
	8 業務・勤務時間の適正化に関すること	
	9 指導業務の改善に関すること	
	10 専門性と協働の推進に関すること	
	11 働きやすい環境づくりに関すること	
	12 今後の働き方改革に向けて、学校や市・市教育委員会に望むこと	自由記述

現状と課題について

人員体制に関することについて：小学校

1 - A

どの項目でも80%以上の教職員が負担（課題）と感じている。
教頭は、特に学級担任以外の職員の不足に負担（課題）を感じている。



とても負担（課題）になっている

ある程度負担（課題）になっている

どちらとも言えない

あまり負担（課題）ではない

負担（課題）ではない

※グラフ上の%表示は「とても負担（課題）になっている」、「ある程度負担（課題）になっている」を合算した割合

その他、負担・課題を感じていること

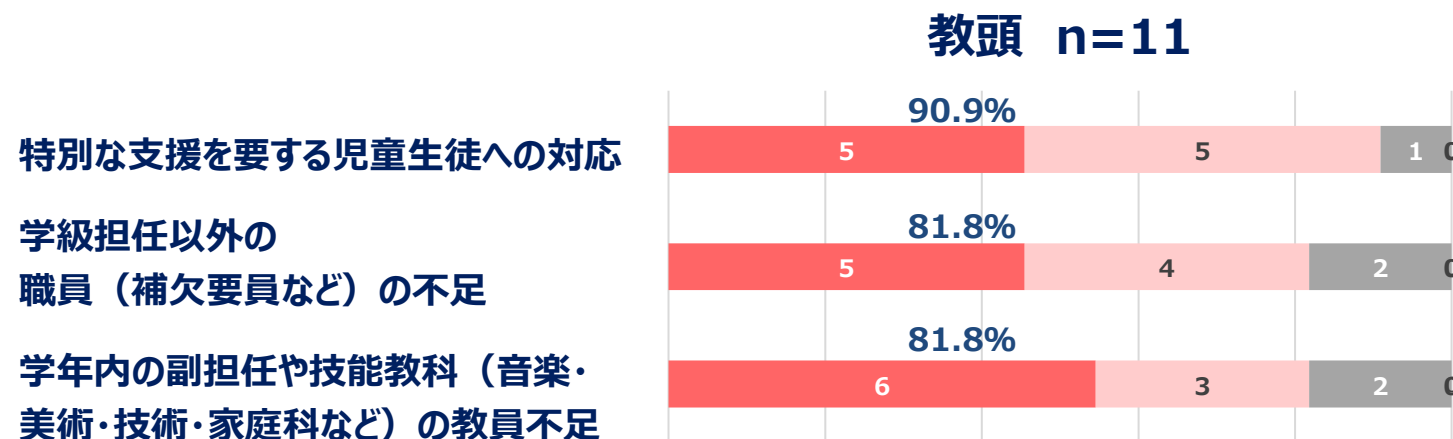
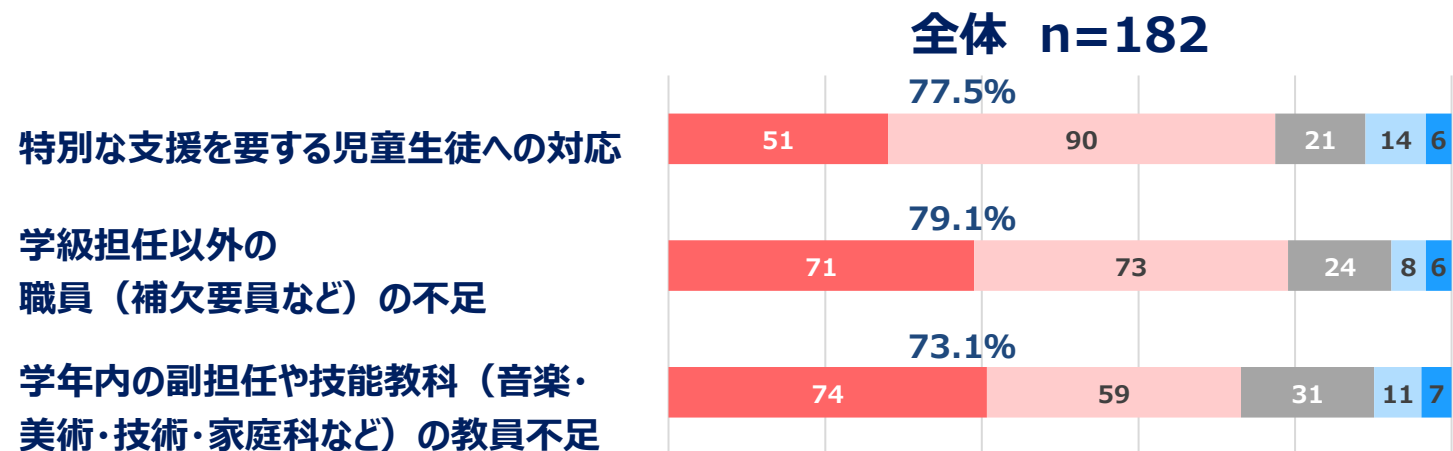
6

- ・ 教員や補助スタッフの不足により、一人当たりの業務負担が増えているため、特に休みを取りにくい
- ・ 学年や学級ごとのサポート人員が必要
- ・ 外国籍児童や特別な支援が必要な児童への対応が限界を超えている
- ・ 学校行事や課外活動で要求される人員数が学校内の人員で足りていない
- ・ 担任を持たない教員がもっと必要。生徒指導への対応・職員の出張や急病等への対応力が不足している
- ・ 教育センター支援員の勤務時間が短く、下校時間までカバーできていない

人員体制に関することについて：中学校

1 - B

教頭は、特に特別な支援を要する児童生徒への対応に負担（課題）を感じている。
その他として、小規模校での職員の負担軽減や職員のバランスのとれた配置等が求められている。



とても負担（課題）になっている

ある程度負担（課題）になっている

どちらとも言えない

あまり負担（課題）ではない

負担（課題）ではない

※グラフ上の%表示は「とても負担（課題）になっている」、「ある程度負担（課題）になっている」を合算した割合

その他、負担・課題を感じていること

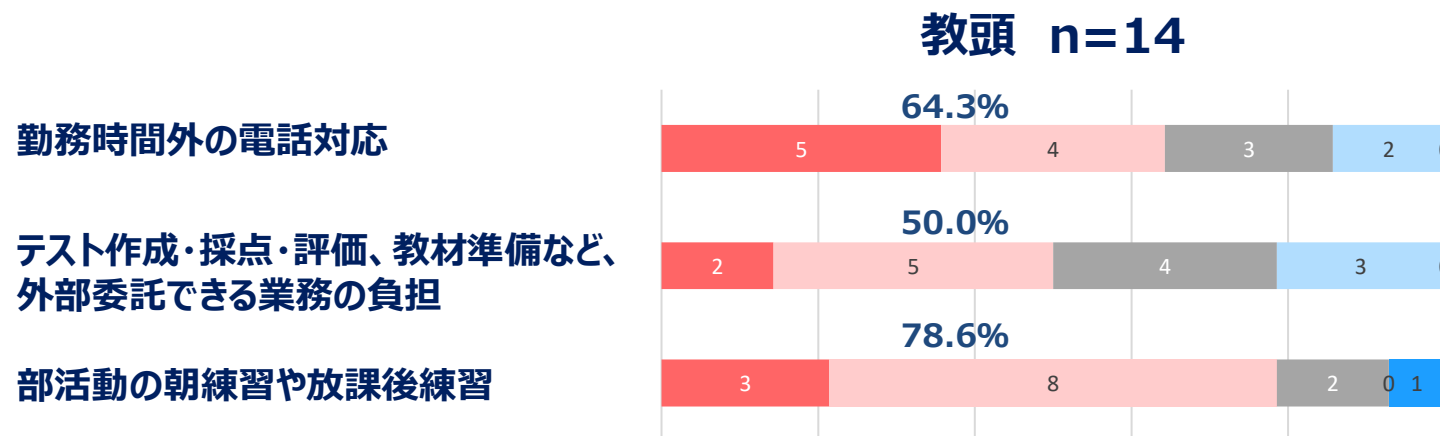
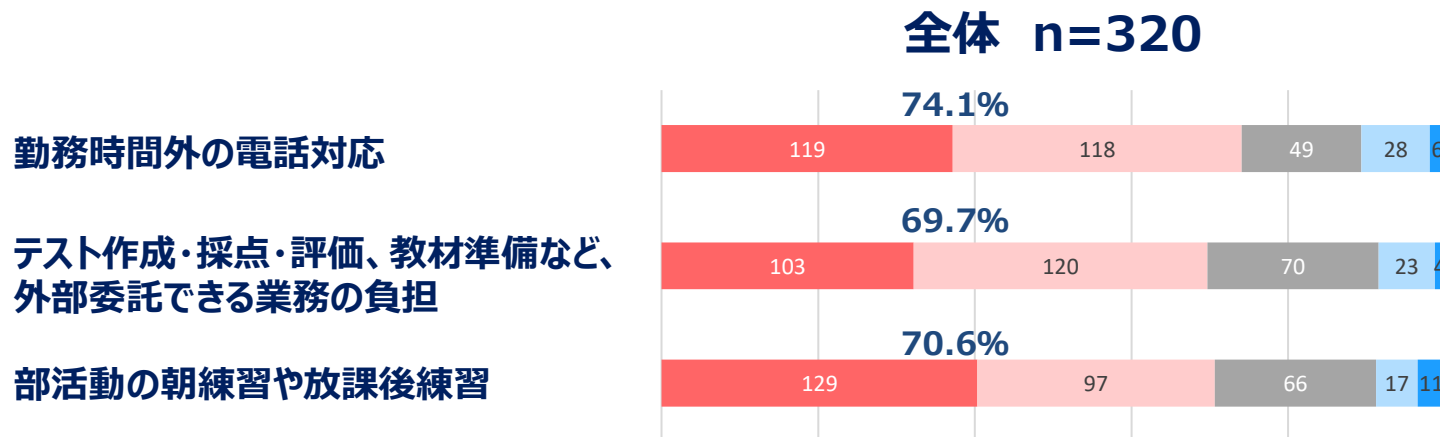
6

- ・ 教員の数が不足しており、特に特別支援学級や小規模校での職員負担が大きい
- ・ 専門性のある職員の確保や正規採用職員の配置
- ・ 特定の職員への負担を軽減するため、職員のバランスの良い配置が必要
- ・ 教科担任（特に技能教科）に正規の職員の割り当てが必要。副担任の人数も増やしてほしい
- ・ 小さい学校は職員も少なく負担が大きい

業務・勤務時間の適正化に関することについて：小学校

2-A

全体では勤務時間外の電話対応、教頭は、部活動練習に負担（課題）を感じている。
その他として、事務作業の多さや持ち帰りの仕事等について言及されている。



とても負担（課題）になっている

ある程度負担（課題）になっている

どちらとも言えない

あまり負担（課題）ではない

負担（課題）ではない

※グラフ上の%表示は「とても負担（課題）になっている」、「ある程度負担（課題）になっている」を合算した割合

その他、負担・課題を感じていること

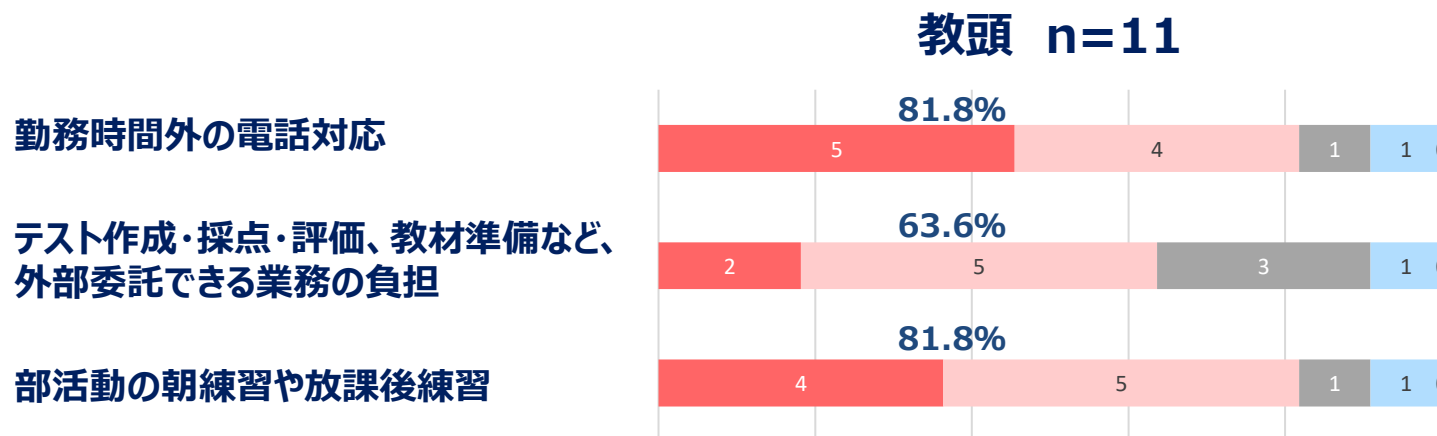
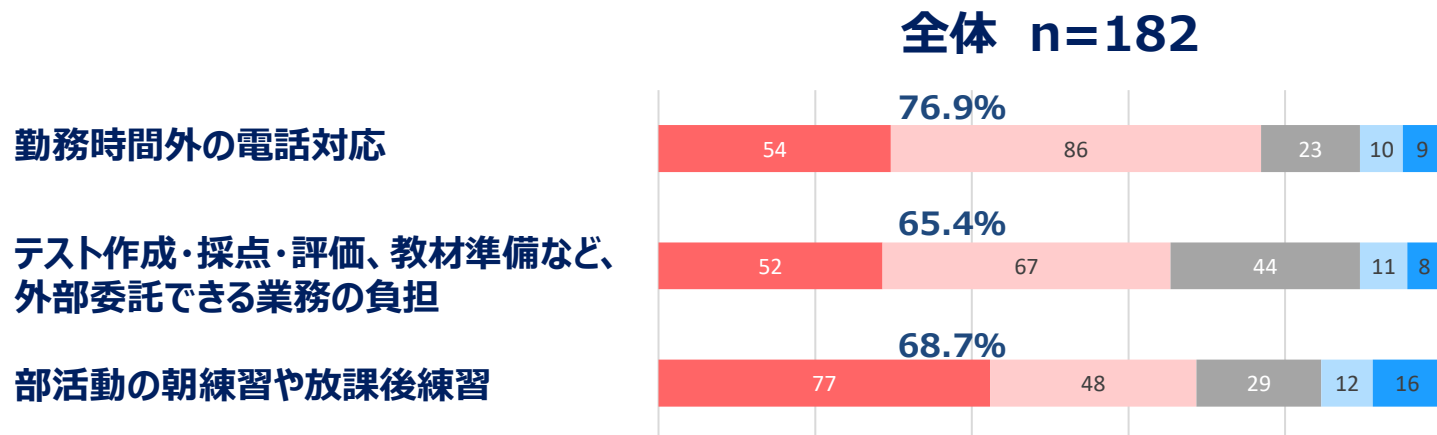
6

- 多くの教員が残業や持ち帰り仕事をしている現状があり、業務の見直しが必要
- 事務作業が多く、授業準備に使える時間が確保できていない
- 校務のための報告書や調査が多すぎる
- 小規模校は、校務分掌が多岐にわたり負担が大きい
- そもそも残業ありきの業務量だと思う
- 業務内容は変わらず、早く帰宅することを求められる
- スクラップアンドビルドの「スクラップ」が難しい
- 校舎の清掃や修繕、管理に関すること。廊下のポリッシュかけ、窓掃除、運動場の砂入れ、草刈りなど
- 学年で行う行事等、計画や練習における調整や準備
- 教員でなくともできる業務

業務・勤務時間の適正化に関することについて：中学校

2-B

小学校同様、全体では勤務時間外の電話対応、教頭は、部活動練習に負担（課題）を感じている。
その他として、土・日・祝日の部活動や学校外でのトラブルの対応等にも負担（課題）を感じている。



その他、負担・課題を感じていること

6

- 勤務時間外の部活動指導や電話対応
- 業務量が多いため、帰宅後に自宅で業務を行わざるを得ない
- 事務作業や整理されていない情報整理が時間を圧迫しているため、効率化が必要
- 土・日・祝日の部活動が負担
- 朝夕の登下校指導
- 学校外でのトラブルの対応
- 教員でなくともできる業務

とても負担（課題）になっている ある程度負担（課題）になっている どちらとも言えない あまり負担（課題）ではない 負担（課題）ではない

※グラフ上の%表示は「とても負担（課題）になっている」、「ある程度負担（課題）になっている」を合算した割合

指導業務の改善に関することについて：小学校

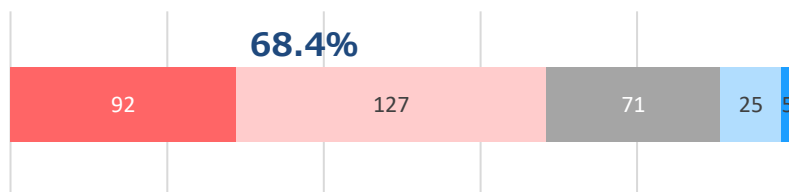
3-A

約70%が負担（課題）を感じている。

その他として、研修機会の拡充や公平な業務分担・効率化等が求められている。

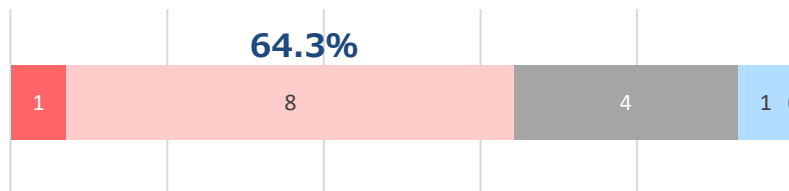
教育課程編成（6時間授業など）や
行事運営（行事の準備など）に伴う
下校時間の遅れ

全体 n=320



教育課程編成（6時間授業など）や
行事運営（行事の準備など）に伴う
下校時間の遅れ

教頭 n=14



その他、負担・課題を感じていること

6

- 一部の教員に業務が集中している。公平な業務分担を求める
- 特別支援教育への理解を深めるための体験や研修の機会が必要
- 成績処理や授業研究が標準化されておらず、効率化の余地がある

とても負担（課題）になっている

ある程度負担（課題）になっている

どちらとも言えない

あまり負担（課題）ではない

負担（課題）ではない

※グラフ上の%表示は「とても負担（課題）になっている」、「ある程度負担（課題）になっている」を合算した割合

指導業務の改善に関することについて：中学校

3-B

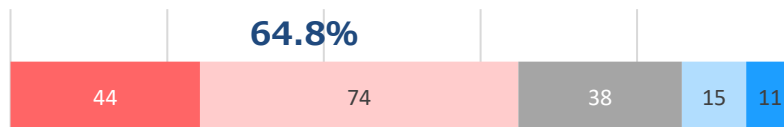
部活動について、70%以上が負担（課題）を感じている。

その他として、いじめや長期欠席の生徒への対応の難しさや指導案作成等の業務について言及されている。

全体 n=182

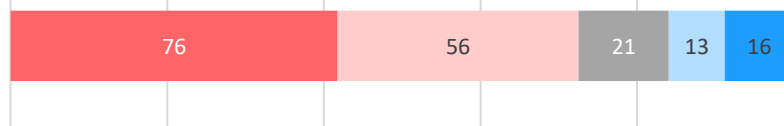
教育課程編成（6時間授業など）や
行事運営（行事の準備など）に伴う
下校時間の遅れ

64.8%



部活動の負担による最終下校の遅れ

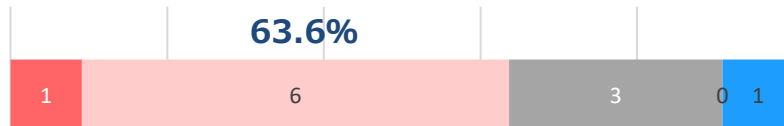
72.5%



教頭 n=11

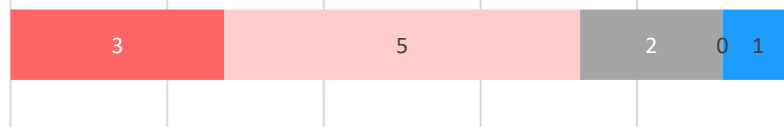
教育課程編成（6時間授業など）や
行事運営（行事の準備など）に伴う
下校時間の遅れ

63.6%



部活動の負担による最終下校の遅れ

72.7%



とても負担（課題）になっている

ある程度負担（課題）になっている

どちらとも言えない

あまり負担（課題）ではない

負担（課題）ではない

※グラフ上の%表示は「とても負担（課題）になっている」、「ある程度負担（課題）になっている」を合算した割合

その他、負担・課題を感じていること

6

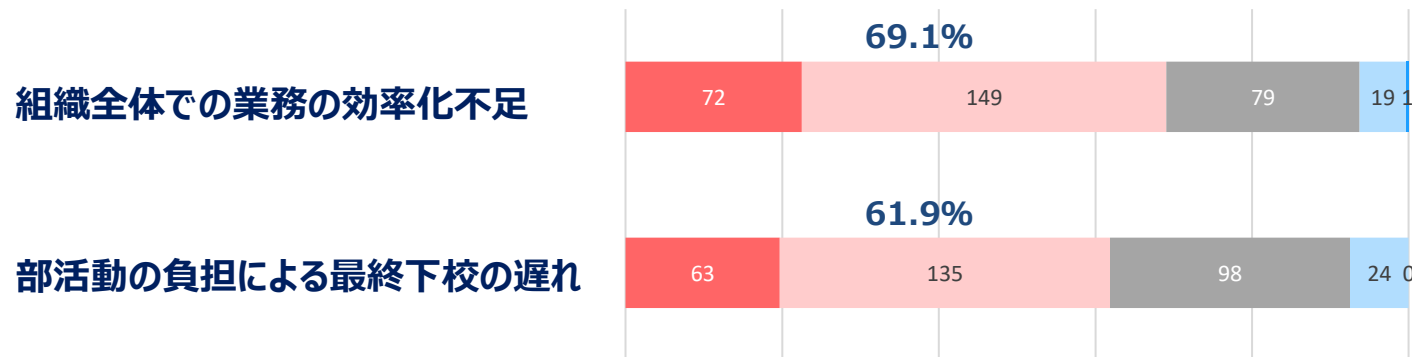
- いじめへの対応や長期欠席生徒への対応が難しい
- 指導案作成に多大な時間がかかり、勤務時間内での作成が難しい
- 部活動の地域展開による、平日も含めた部活動の撤廃
- 部活動について、引率だけでなく、大会の運営や審判等が負担

専門性と協働の推進に関することについて：小学校

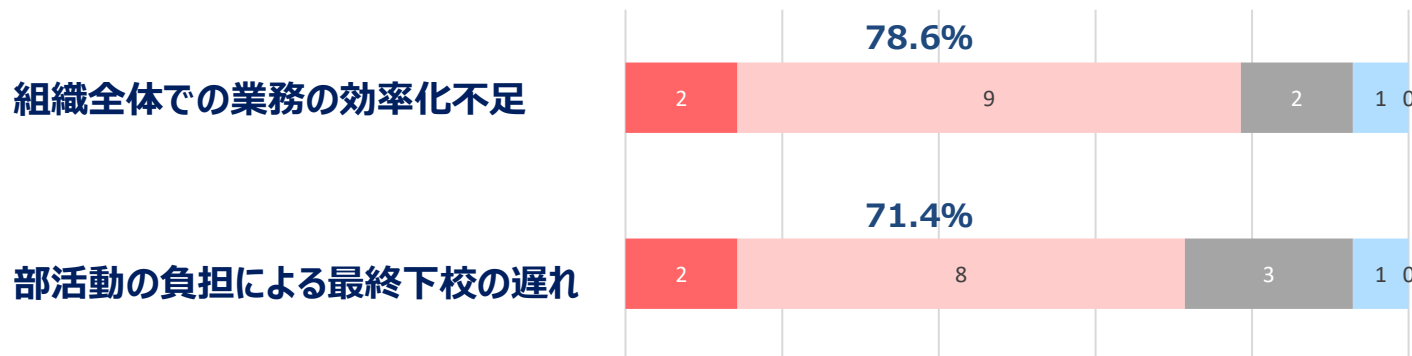
4-A

教頭は、約80%が組織全体での業務の効率化不足に負担（課題）を感じている。
その他として、若手職員や経験の少ない講師への指導体制の充実が求められている。

全体 n=320



教頭 n=14



とても負担（課題）になっている

ある程度負担（課題）になっている

どちらとも言えない

あまり負担（課題）ではない

負担（課題）ではない

※グラフ上の%表示は「とても負担（課題）になっている」、「ある程度負担（課題）になっている」を合算した割合

その他、負担・課題を感じていること

6

- 専門職による業務の支援が不足している。スクールロイヤーや他の専門サポートが必要
- 経験の少ない講師や若手教員への指導体制の充実が必要
- 校内研修が個々の教員に負担をかけており、組織的な取り組みが必要
- 初任者指導の充実
- 準備指導などが負担
- 若手教師への指導をどうするか

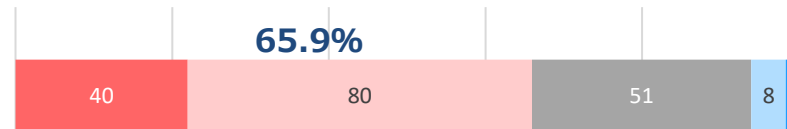
専門性と協働の推進に関することについて：中学校

4-B

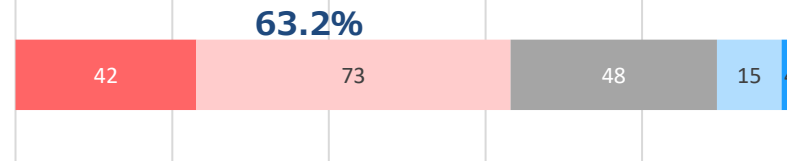
全体的に小学校に比べて負担（課題）は低い傾向である。
その他として、免許外の教科指導や報告書作成などに負担（課題）を感じている。

全体 n=182

組織全体での業務の効率化不足

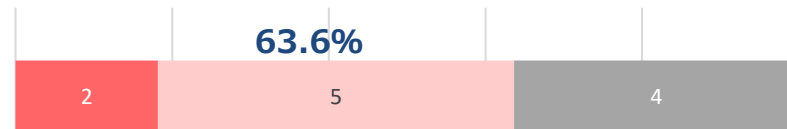


部活動の負担による最終下校の遅れ

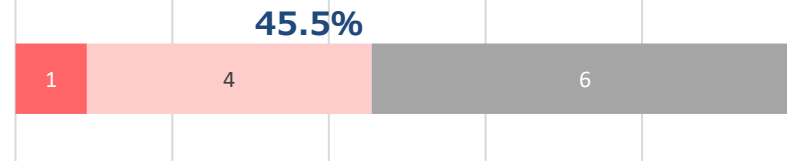


教頭 n=11

組織全体での業務の効率化不足



部活動の負担による最終下校の遅れ



とても負担（課題）になっている

ある程度負担（課題）になっている

どちらとも言えない

あまり負担（課題）ではない

負担（課題）ではない

※グラフ上の%表示は「とても負担（課題）になっている」、「ある程度負担（課題）になっている」を合算した割合

その他、負担・課題を感じていること

6

- 経験年数の少ない職員への業務割り当てや免許外の教科指導の負担が大きい
- DX推進による業務効率化が展開されているが、報告書の作成などでむしろ業務が増えている
- 様々な機能が統一的に使用できる校務支援システムの導入
- 免許外の教科の受け持ちは生徒にとっても負担

働きやすい環境づくりに関することについて：小学校

5-A

他の項目と比較すると負担（課題）は相対的に低くなっている。

教頭は、約60%が子育て世代の職員が休みを取りやすい環境の不足に負担（課題）を感じている。

全体 n=320

職員同士が気軽に会話・相談できる場の不足

29.4%



子育て世代の職員が休みを取りやすい環境の不足

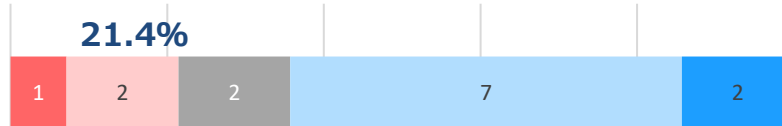
45.9%



教頭 n=14

職員同士が気軽に会話・相談できる場の不足

21.4%



子育て世代の職員が休みを取りやすい環境の不足

57.1%



とても負担（課題）になっている

ある程度負担（課題）になっている

どちらとも言えない

あまり負担（課題）ではない

負担（課題）ではない

※グラフ上の%表示は「とても負担（課題）になっている」、「ある程度負担（課題）になっている」を合算した割合

その他、負担・課題を感じていること

6

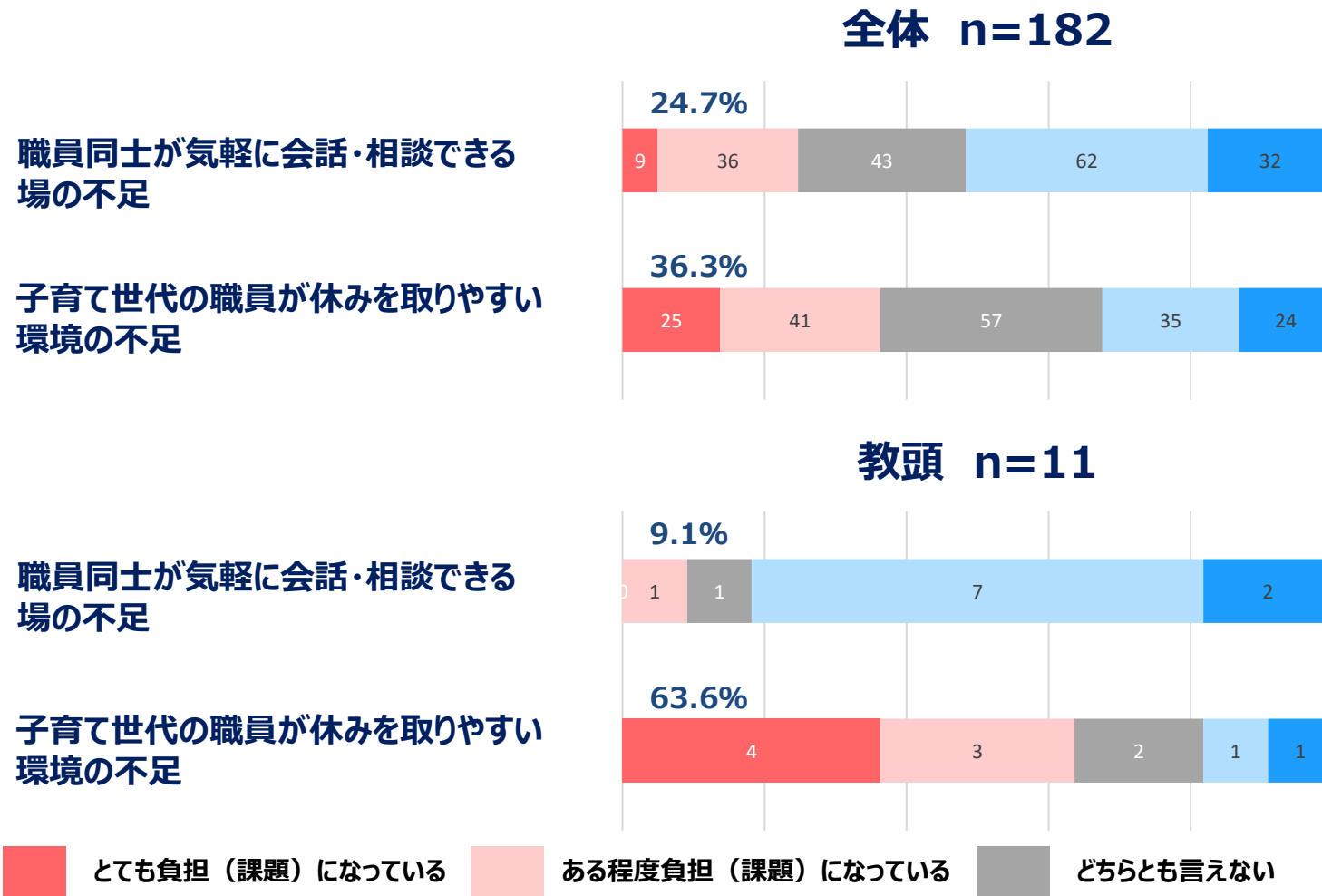
- 学校の設備や環境が他の公共施設と比べて劣悪であるため改善が必要
- 部活動や外部行事などの負担軽減策が必要
- 留守電の導入や勤務時間外の電話対応の見直し
- 管理職と教員間のコミュニケーション不足。フィードバック制度の導入
- 校内の教員不足。補欠が学年対応になり、子どもが発熱などした際に休みを取りづらい

働きやすい環境づくりに関することについて：中学校

5-B

小学校同様、他の項目と比較すると負担（課題）は相対的に低くなっている。

教頭は、約60%以上が子育て世代の職員が休みを取りやすい環境の不足に負担（課題）を感じている。



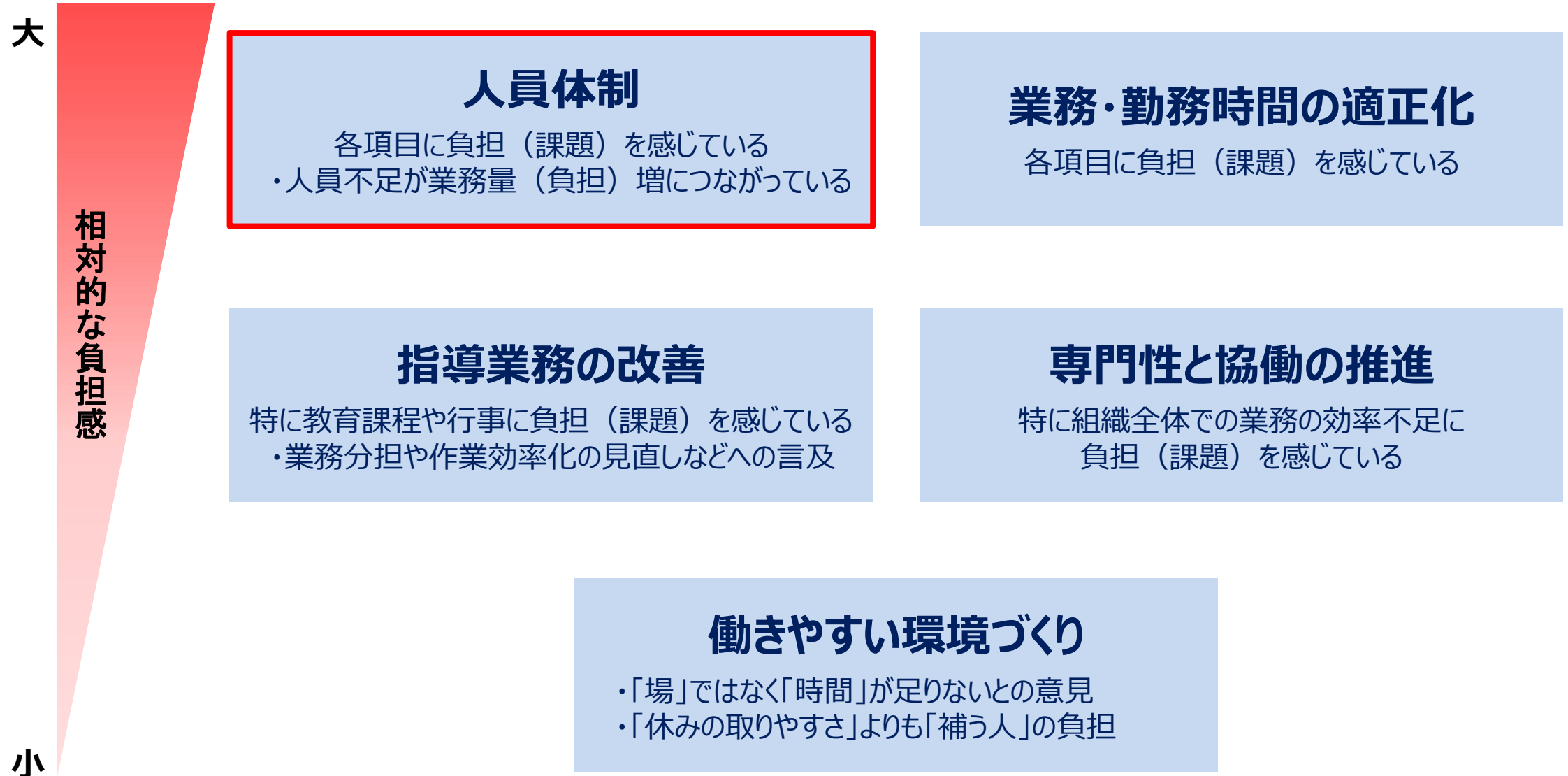
その他、負担・課題を感じていること

6

- 管理職とのコミュニケーションを通じた職場環境の改善
- 正しい情報の早期通知や誤情報の是正
- 老朽化した施設や設備への改善
- 職員同士の会話・相談については場というよりも時間が不足している
- 子育てや休みなど休暇はとりやすくなったが、それを補う人の負担が大きくなっている

※グラフ上の%表示は「とても負担（課題）になっている」、「ある程度負担（課題）になっている」を合算した割合

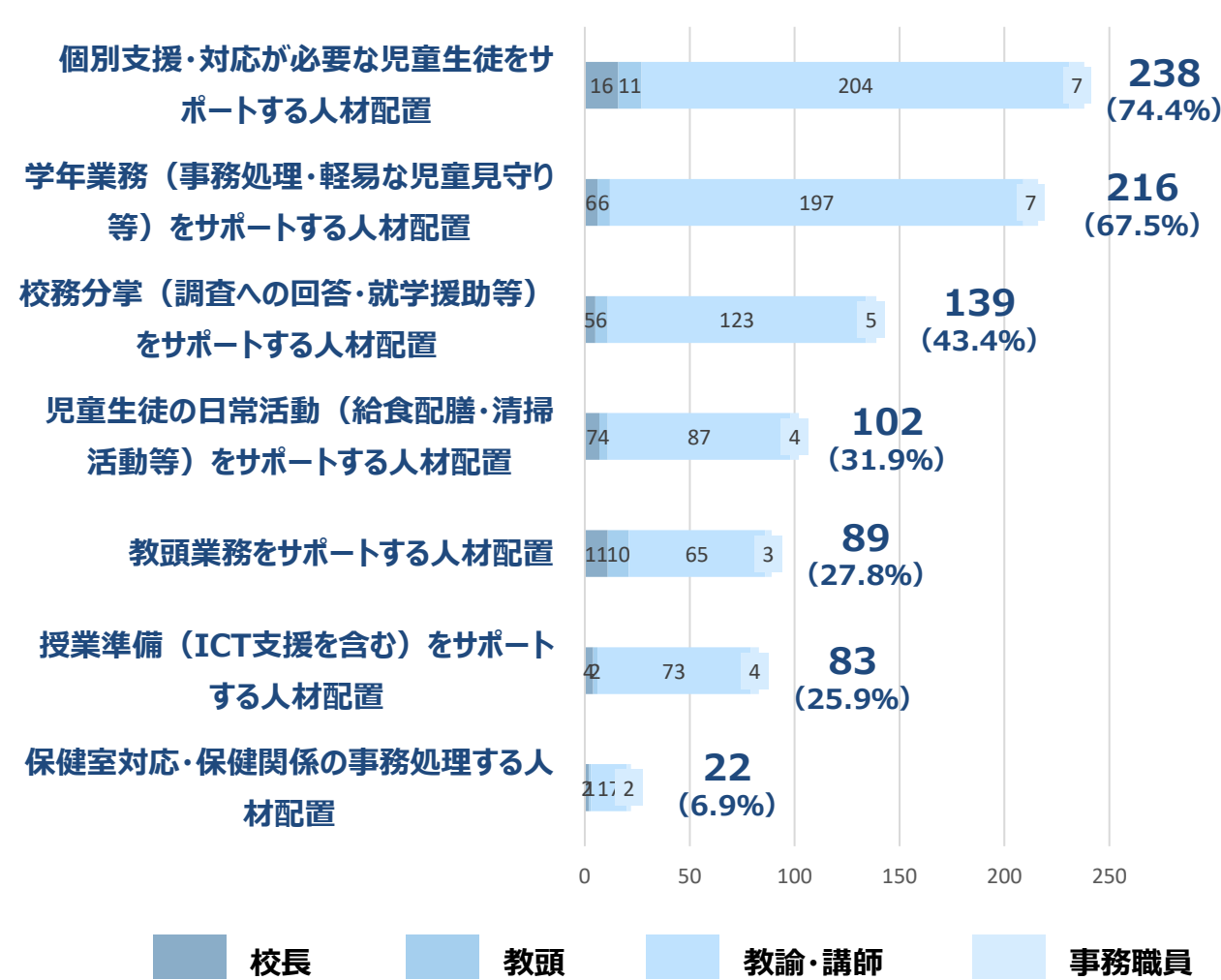
まとめ：現状と課題について



取組の方向性について

人員体制に関すること：小学校

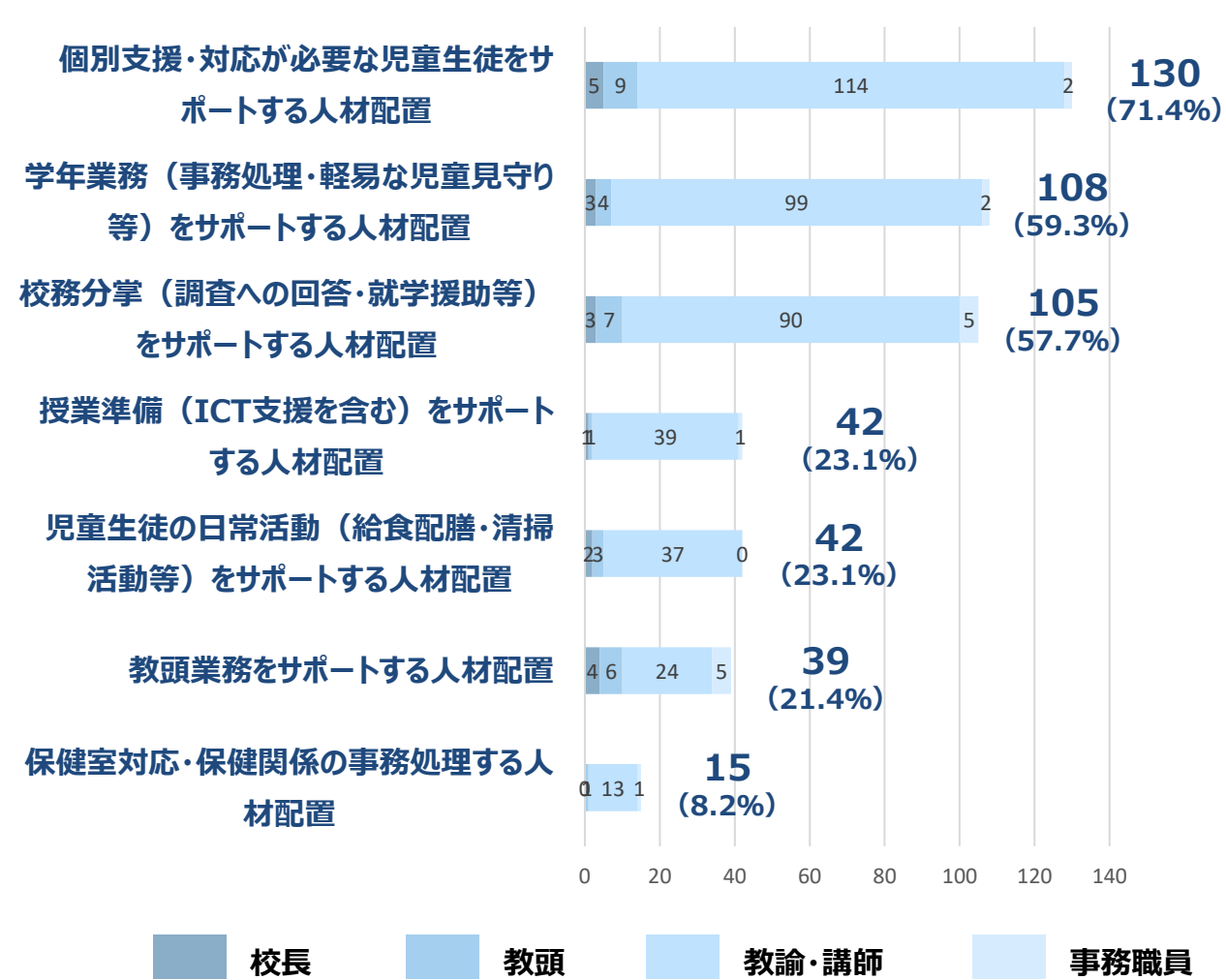
特に個別支援・対応が必要な児童生徒や、学年業務をサポートする人材配置が求められている。
その他の意見として、正規職員の増員や育児休暇などの補充体制の強化等があげられた。



- ### その他の意見
- 市費事務職員の配置
 - サポートではなく、正規の職員を増やしてほしい
 - 音楽や体育の部活支援をする人材
 - 教育委員会の配布物・提出物の配達・回収
 - 日本語指導員の増員
 - 療養休暇や産前産後、育児休暇を取る職員についての人員配置がない
 - そもそもの人員不足が問題と感じている
 - 朝練対応の人材
 - クレーム対応
 - 専科等の授業が実際にできる人材の配置教員、支援員、会計年度任用職員、専科担当教員などの増員
 - 特に教員不足の解消を求める意見や、欠員が出た場合の補充体制を強化してほしい
 - 1学級の児童生徒数を減らしたい
 - 人材を管理する職員の配置

人員体制に関すること：中学校

小学校同様、特に個別支援・対応が必要な児童生徒や、学年業務をサポートする人材配置が求められている。その他の意見としても小学校同様、正規職員の増員があげられた。また、部活動に関する人員配置を望む声が多くみられた。



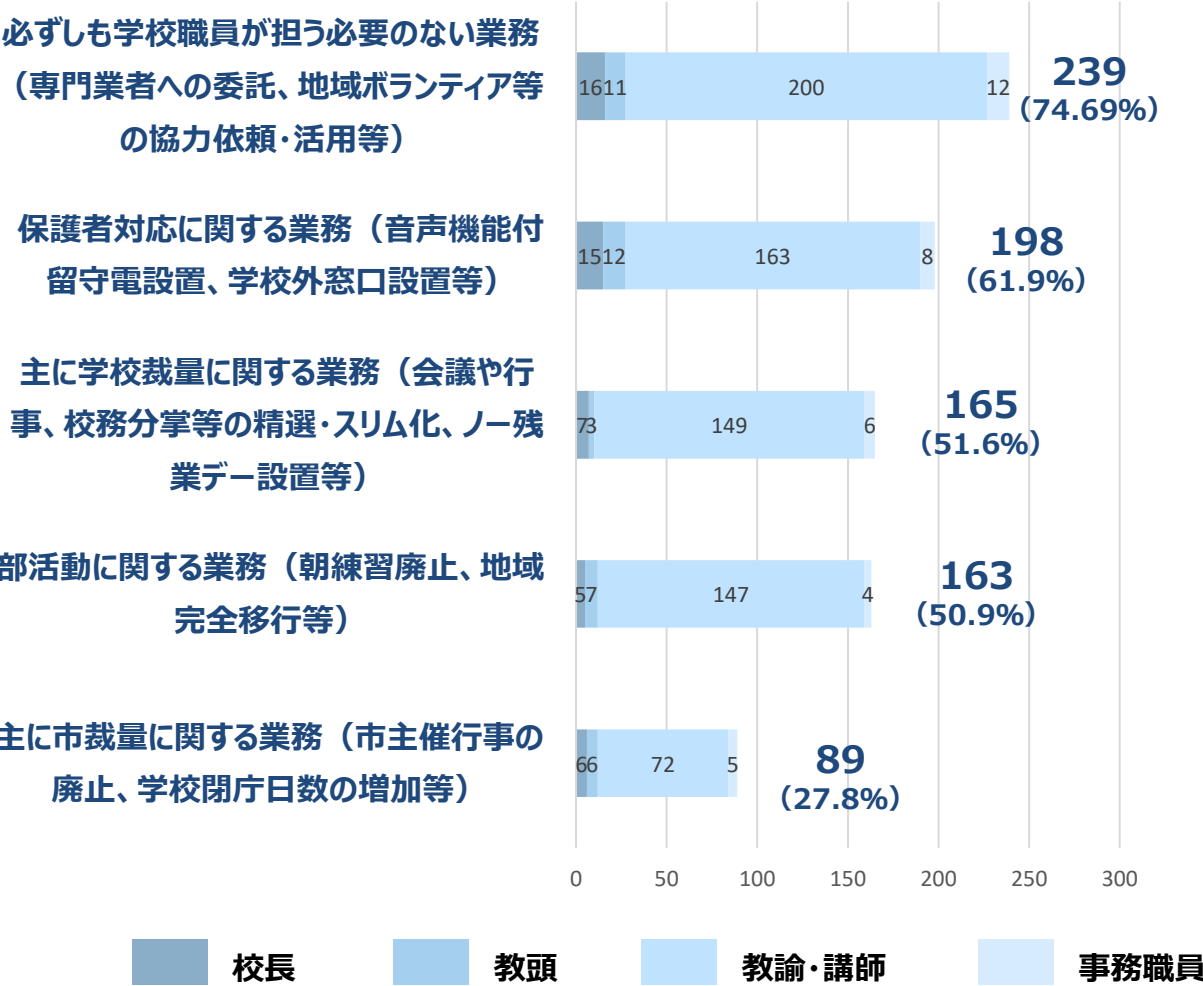
その他の意見

- 辻等の人員
- 支援員でなく教員を増やしてほしい
- 部活動の外部指導人材の配置
- 部活動についての負担軽減
- 部活動を支援する人材配置、行事を支援する人材配置
- 働き方改革を推進する人材
- 部活動の指導員の配置
- 教員の増員
- 技能教科の不足しているところへの支援配置
- 正規の教員（時間いっぱい働ける教師）教員や職員の数を増やし、負担を分散してほしい
- 日本語指導員や学級支援員の増員
- 外部指導者や代替教員の確保を強く望む
- 特別支援教育に係る人員配置の強化の要望
- 高齢者を含む多様な人材の活用とサポート

※tt...チームティーチング
複数の教員がチームとなって実施する指導方法

業務・勤務時間の適正化に関すること：小学校

必ずしも学校職員が担う必要のない業務、保護者対応に関する業務の見直しが求められている。
その他の意見として、学校行事の精選や調査やアンケートの多さ等について言及されている。※学校行事の精選は指導業務の改善でも求められている。

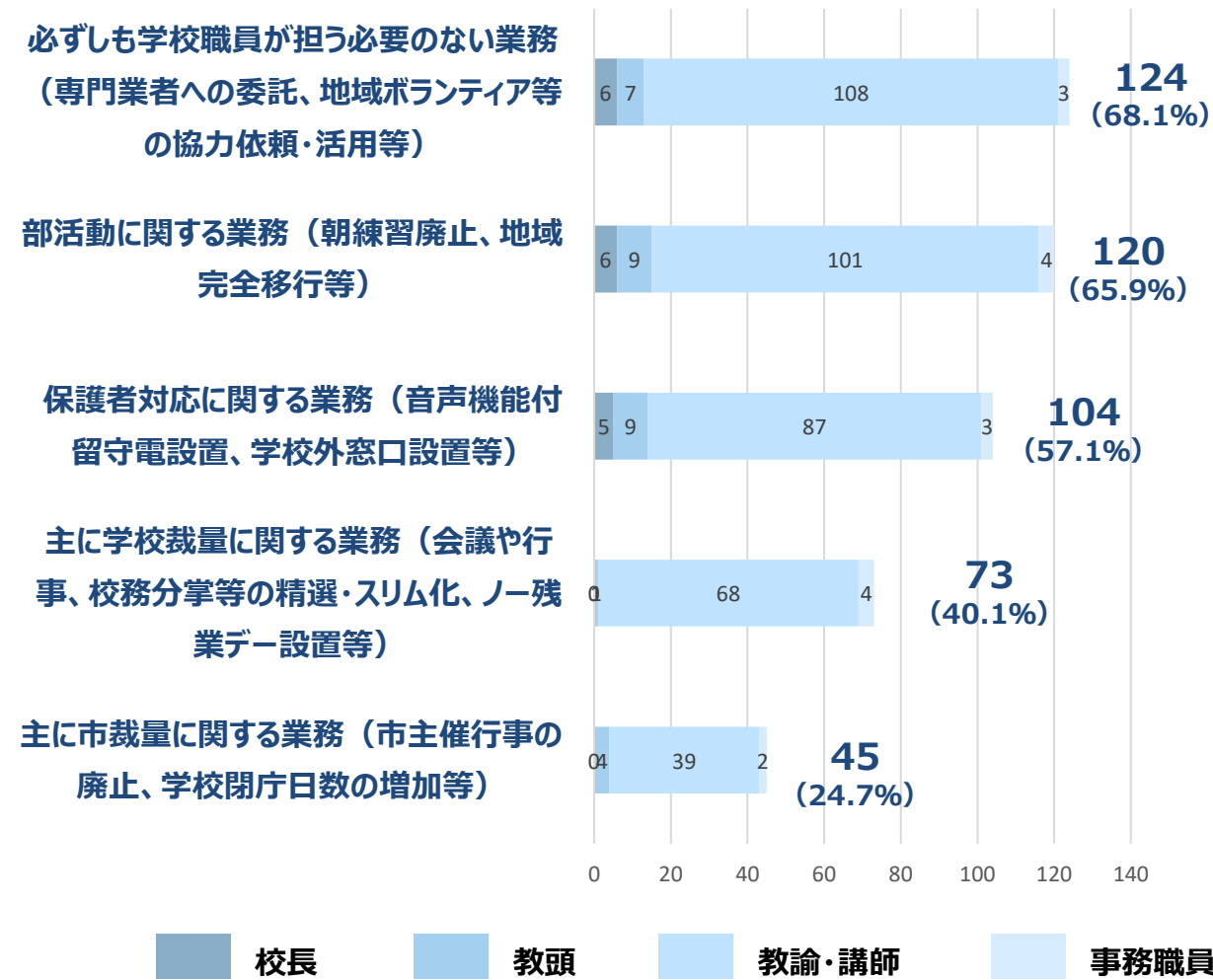


その他の意見

- 水泳授業の外部委託
- 校内行事の精選
- 始業前に関する業務の精選
- 玄関や門扉の電子制御
- 打合せ、会議での提案内容が多すぎる。そこまで細かく多くしなくてもよい
- 調査やアンケートが多すぎて負担になっている
- 残業時間や勤務時間外の仕事を減らしてほしい
- ノー残業デーの賛否について、均等に仕事を行いたい
- 家庭の事情で時短勤務が必要な場合、柔軟に対応してほしい

業務・勤務時間の適正化に関すること：中学校

必ずしも学校職員が担う必要のない業務、部活動に関する業務の見直しが求められている。
その他の意見として、小学校と同様に学校行事の精選を望む声が多くみられた。※学校行事の精選は指導業務の改善でも求められている。

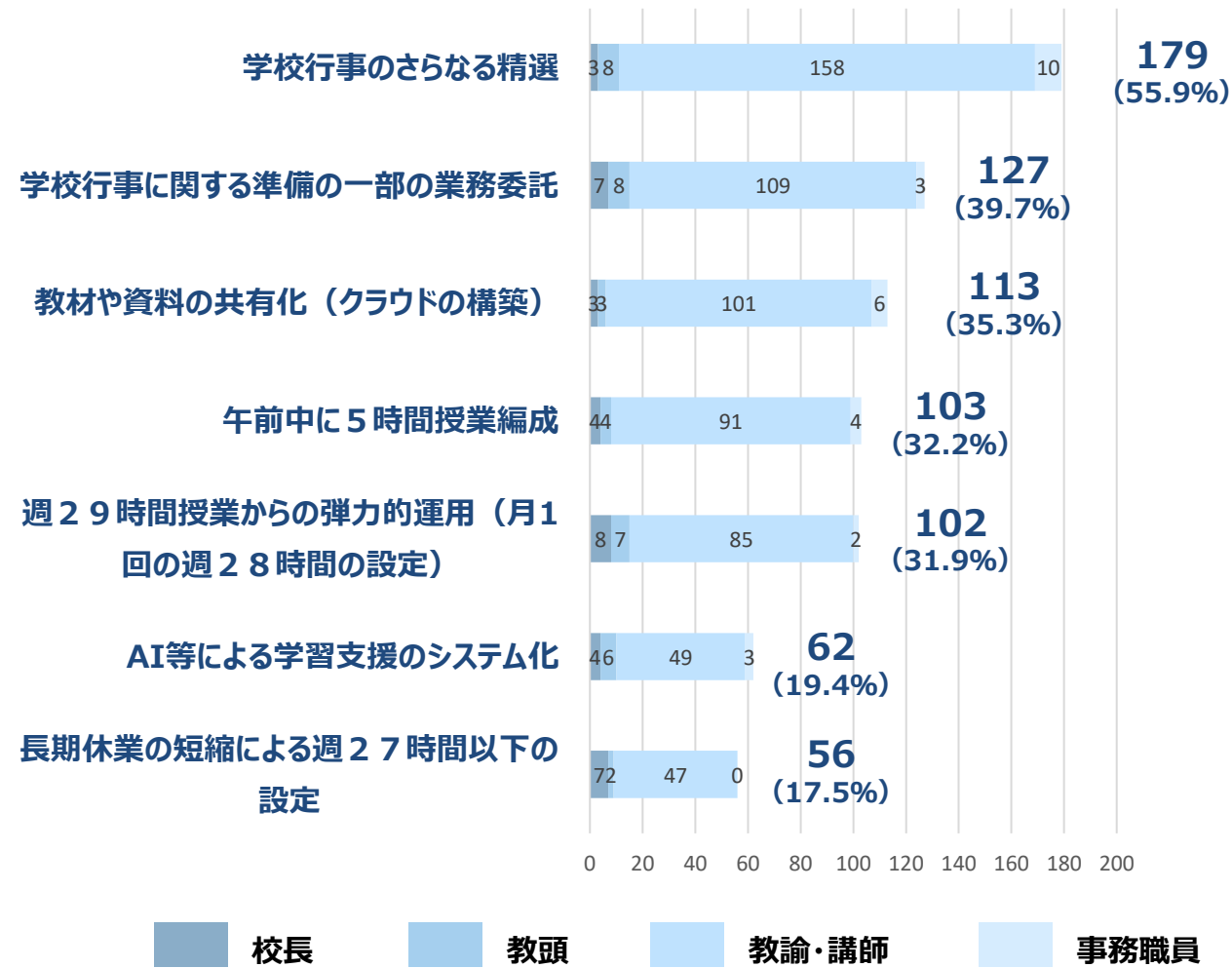


その他の意見

- 授業時数と指導内容の見直し
- 学校行事が多すぎる
- 教育課程に関する改善
- 水泳授業の外部委託
- 学校徴収金（会計業務）の公会計化
- 学校外の行事の精選
- 学校行事の縮小
- 部活動や生徒対応の時間を統一し、勤務時間を適正化してほしい
- 勤務時間外の電話対応を留守番電話にしてほしい
- 業務量の削減と業務負担の適正化
- 学校と市役所間の連絡便の利用
- 行事や特定の業務の必要性や有効性に疑問

指導業務の改善に関すること：小学校

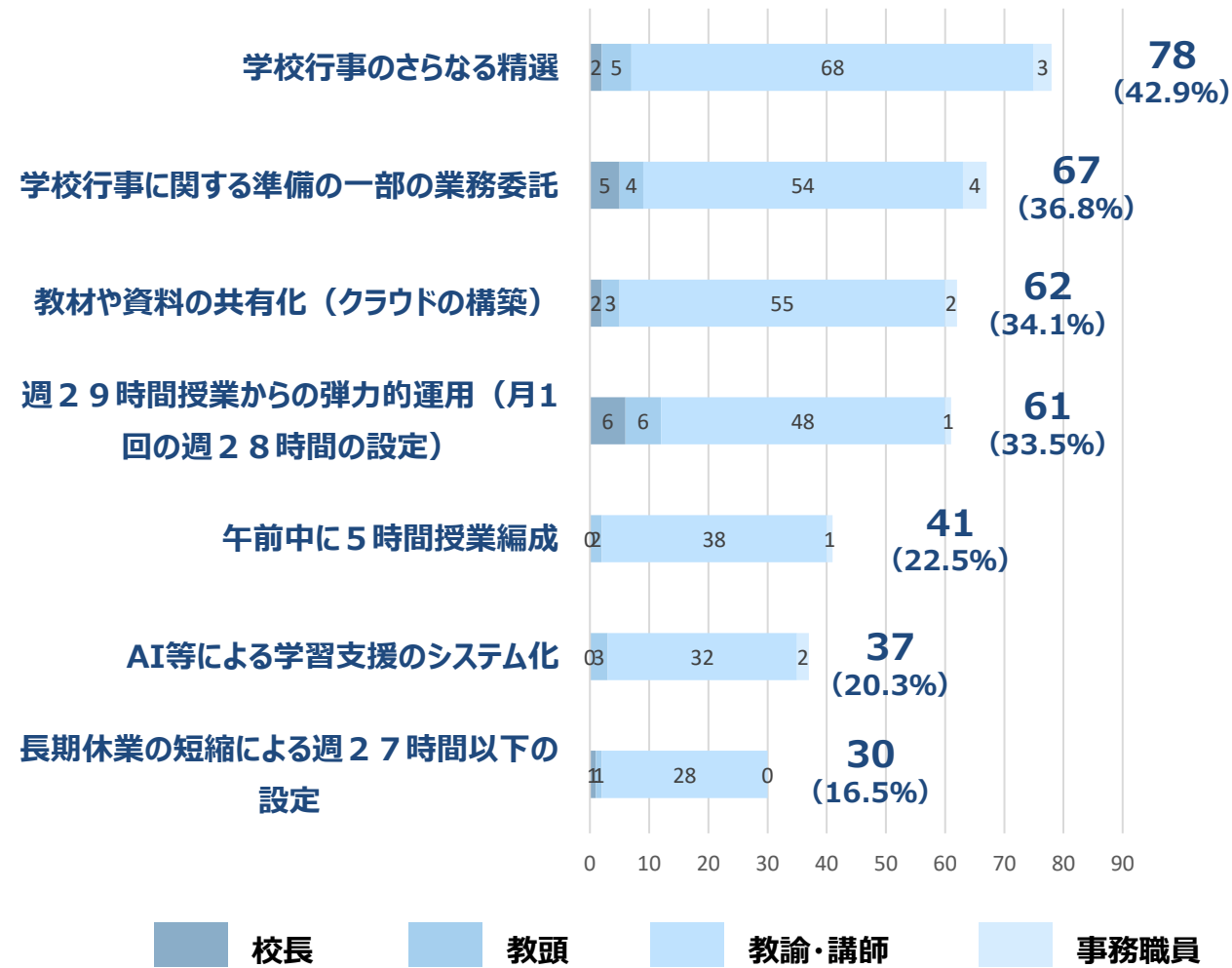
学校行事のさらなる精選、学校行事に関する準備の一部の業務委託が求められている。
その他の意見として、通知表の改善や教科担任制の導入等があげられた。



- ## その他の意見
- 学校内の業務改善はかなりすすんでいると思う
 - 通知表の改善
 - 始業時間の改善
 - 特別支援の空き時間
 - 一クラスの人数を減らす
 - 教科担任制の導入
 - 長期にわたるマラソン練習、準備が大変な六年生を送る会などの準備負担が大きい行事の廃止
 - 何でも複雑にしない。昭和平成時代はどうやっていたかに回帰すれば良い
 - 教員が授業準備や教材研究にもっと時間を使いたい
 - 不必要な部活動や行事を廃止してほしい
 - 指導業務を専門家に委託することで、教員がより効果的に時間を使えるようにしてほしい

指導業務の改善に関すること：中学校

小学校同様、学校行事のさらなる精選、学校行事に関する準備の一部の業務委託が求められている。
その他の意見として、定期テスト問題の業者委託や各業務におけるマニュアルの作成等があげられた。

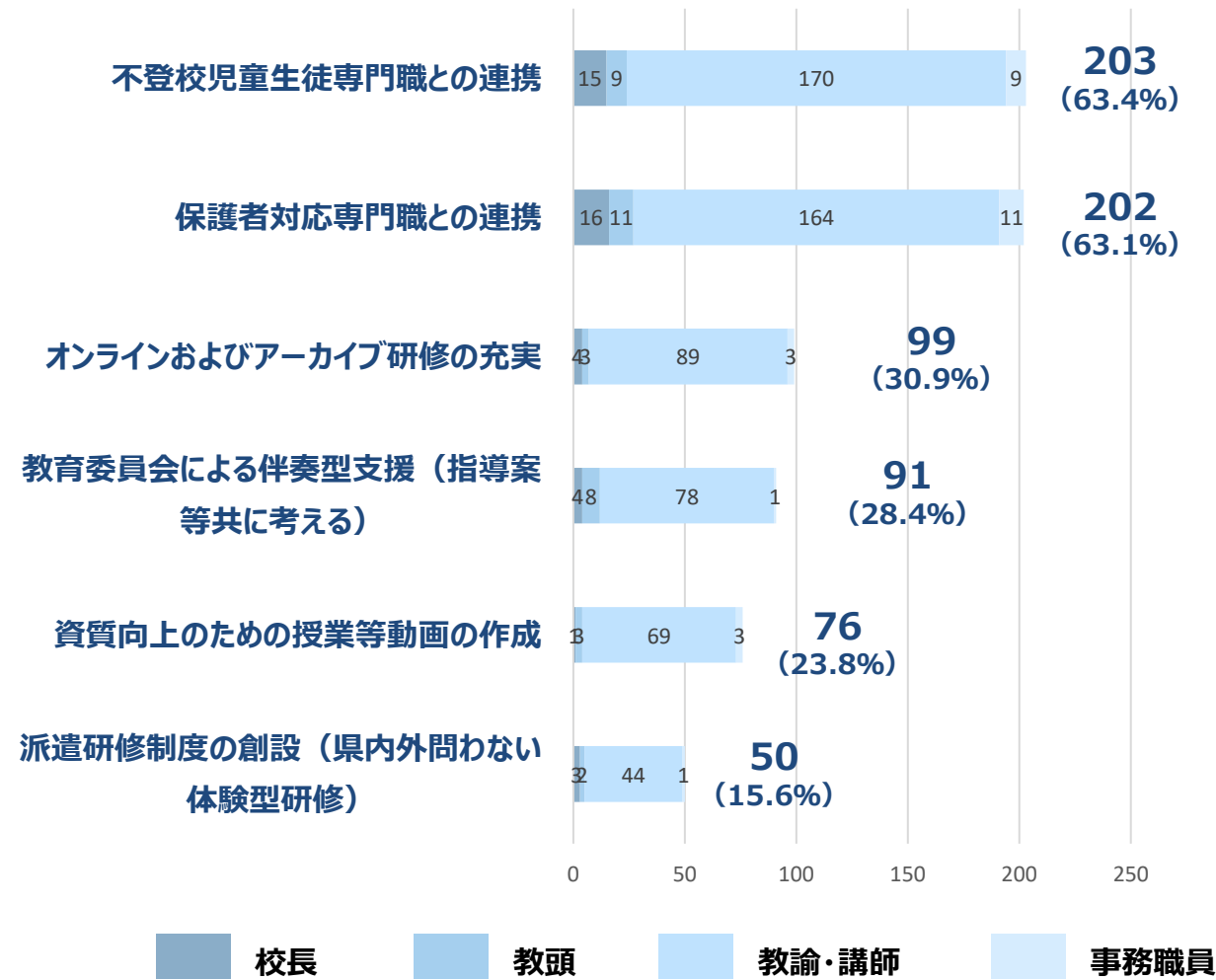


その他の意見

- 電話の勤務時間以降の留守電
- 定期テスト問題の業者委託(小学校の単元テストのように)
- 研修の精選
- 国レベルでの授業数の見直し
- サマータイム導入
- 校務分掌の各仕事のデータベースとマニュアルの作成
- 生徒の学級人数を少なくして、一人ひとりに向き合える時間を増やしてほしい
- 研修や指導案作成の簡略化
- 部活動のあり方や地域移行の促進を求める
- 教員の授業準備や生徒対応時間の確保

専門性と協働の推進に関すること：小学校

不登校児童生徒や保護者への対応のため、専門職との連携が求められている。
その他の意見として、体育科や音楽科などの専門科目において専門性の高い教員の配置を望む声があげられた。

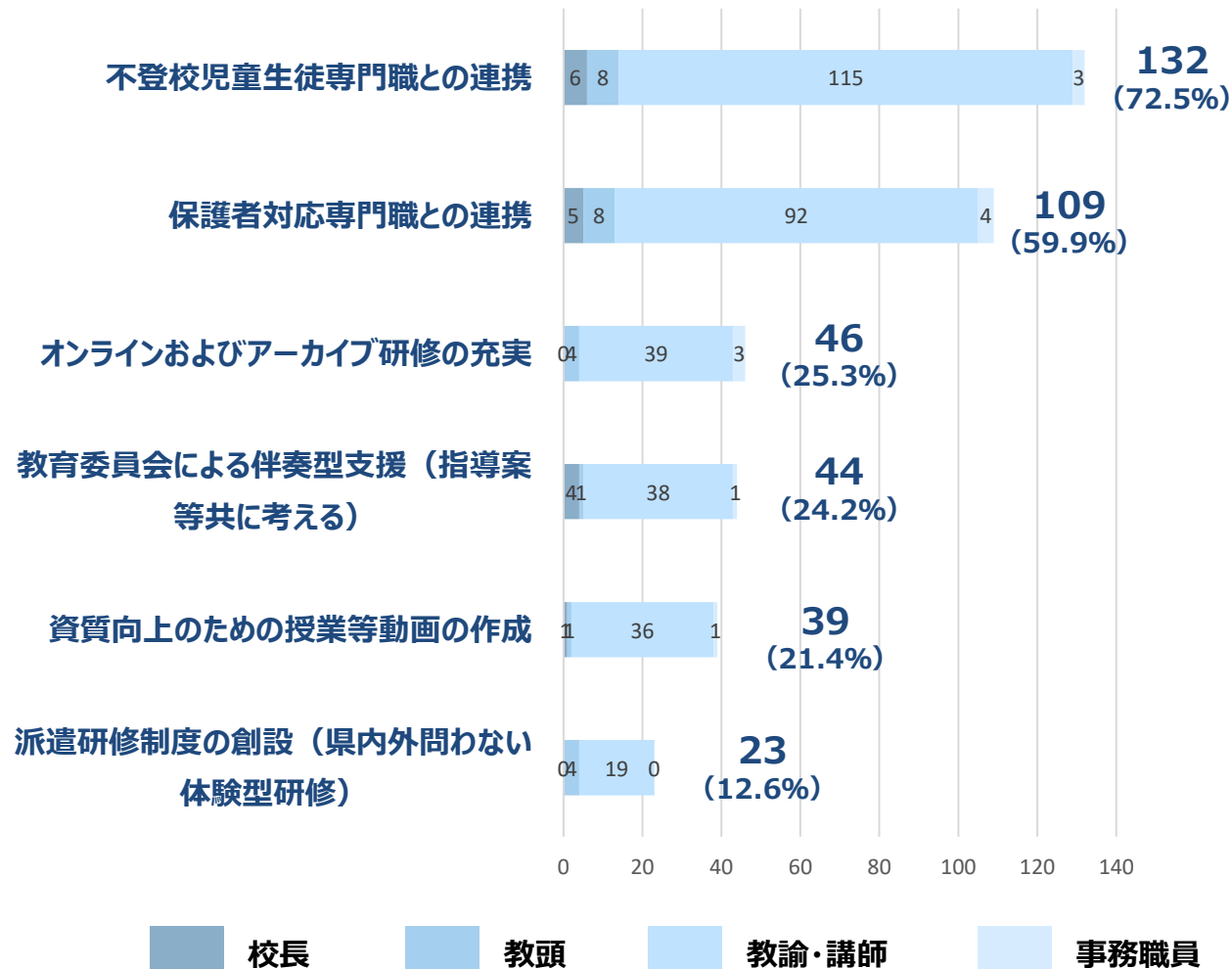


その他の意見

- 部活指導
- 時間の確保がむずかしい
- 外部と連携をとるのは、打ち合わせ等で逆に時間がとられてしまうと感じている
- 体育科や音楽科などの専門科目において、準備や計画の負担が大きい。そのため、専門性の高い教員を配置すべき
- そんなに難しくなくてよい
- 部活動の民間移行や、専門性の高い教員の配置を進めてほしい
- 教職員と市や教育委員会が協力して教育の質を向上させることを望む

専門性と協働の推進に関すること：中学校

小学校同様、不登校児童生徒や保護者への対応のため、専門職との連携が求められている。
その他の意見として、ICT環境の整備と利活用の推進や学校司書や専門スタッフによるサポート体制の強化があげられた。



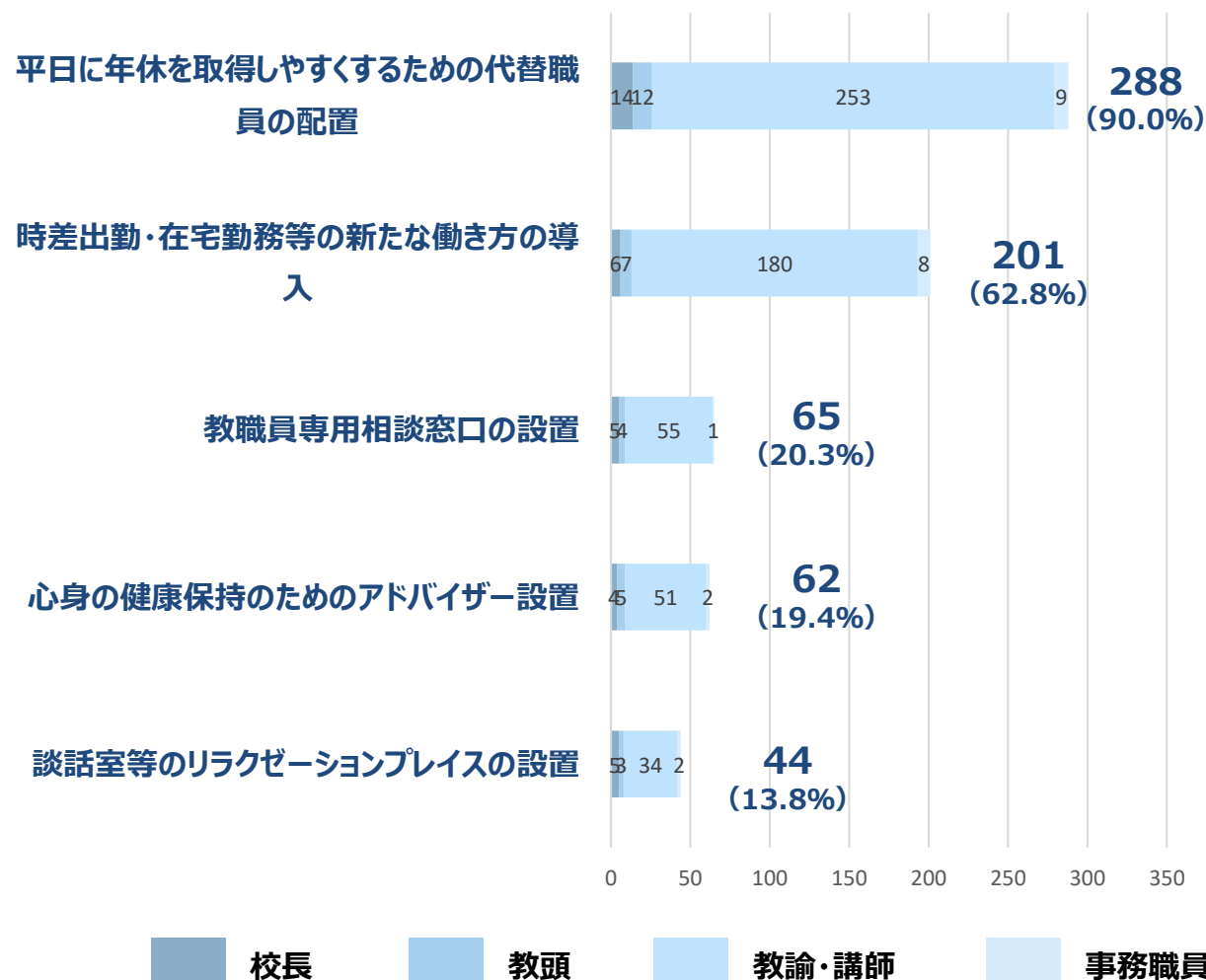
その他の意見

- ・ 事務職員間の情報交換のための交流機会の拡大
- ・ 定期的な研修日の設定
- ・ ICT環境の整備と利活用の推進
- ・ 保護者や地域との役割分担を明確にすること
- ・ 学校司書や専門スタッフによるサポート体制の強化
- ・ 研究と実践を分け、専門家による指導案提供

働きやすい環境づくりに関すること：小学校

10-A

代替職員の配置、時差出勤等の新たな働き方の導入が求められている。
その他の意見として、校務DX化専門職員の配置などの人員体制の強化やメンタルヘルスに関するサポート体制の充実があげられた。



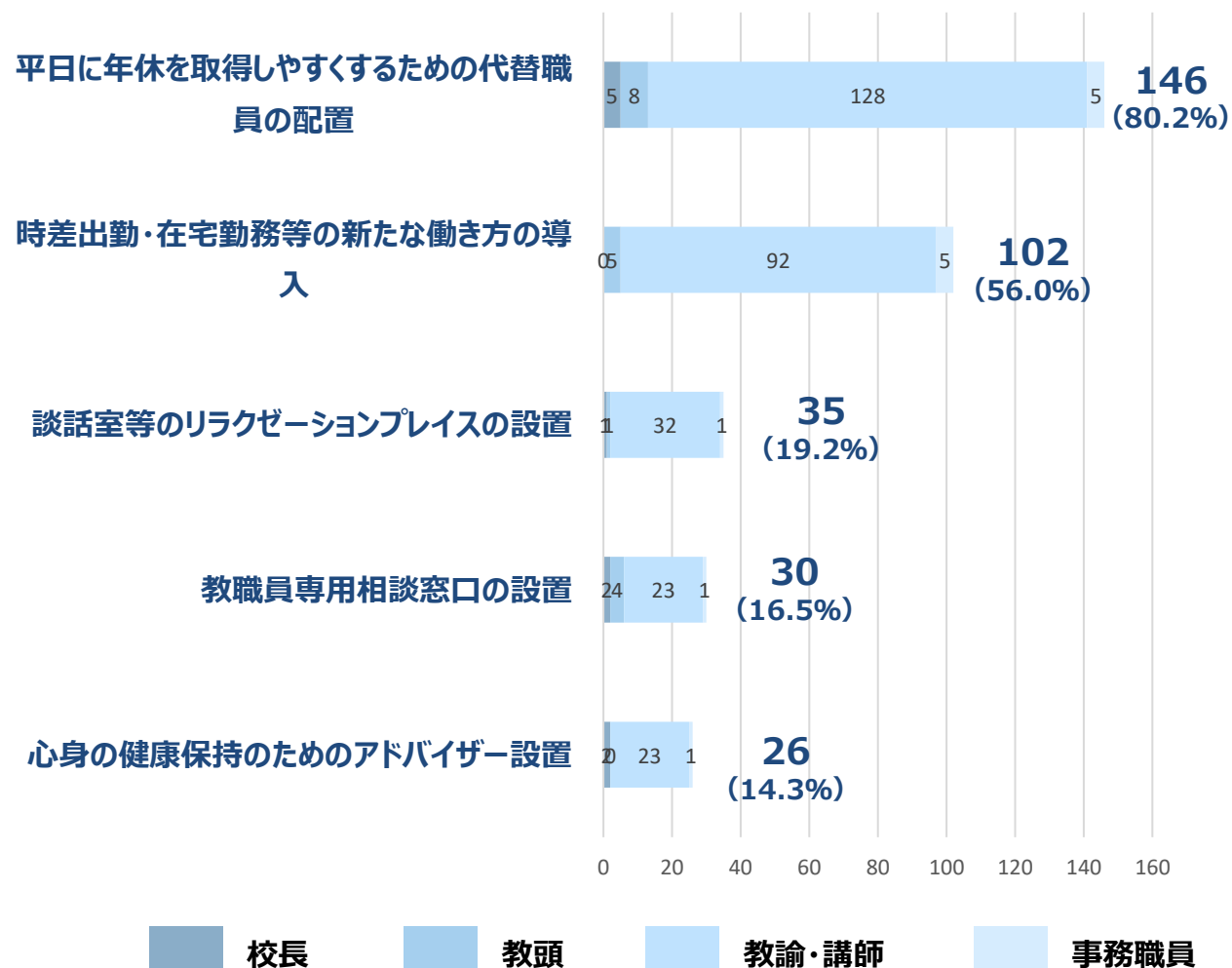
その他の意見

- ・ 現在配置されている職員（介助員・司書・ICT支援等）を常勤職員として配置
- ・ 校務DX化専門職員の配置による、学校業務の徹底見直し
- ・ 学校職員を増やし、事務作業をする時間を確保したい
- ・ 業務を減らしてほしい
- ・ 代休取得増
- ・ 休憩時間の確保
- ・ 始業時刻前の児童預かり対応
- ・ 挨拶がしっかりできる職場であること。年休をあまり推進されると休まない職員の補欠の負担が増えるので、やめてほしい
- ・ 校務DXの推進やAIの利活用を進めてほしい
- ・ 教職員が休憩をとりやすい環境を整えてほしい
- ・ メンタルヘルスに関するサポート体制の充実
- ・ 教職員が頑張ろうとする気持ちを支えてほしい

働きやすい環境づくりに関すること：中学校

10-B

小学校同様、特に代替職員の配置、時差出勤等の新たな働き方の導入が求められている。
その他の意見として、養護教諭複数制などの人員体制の強化や空調設置やPC整備などの施設の改善や備品の整備があげられた。



その他の意見

- ・ 養護教諭複数制
- ・ 管理職とのコミュニケーションを増やすこと
- ・ 福利厚生充実
- ・ 学校全館の空調施設設置
- ・ PCの整備、印刷機やエアコンなどの整備
- ・ 教員数を増やす
- ・ 全教室・体育館に冷暖房完備、電話回線を増やす
- ・ 常勤職員の配置拡充
- ・ 施設の改善や備品の整備（冷暖房完備、校内設備の改善など）
- ・ 休暇や勤務形態の柔軟性
- ・ ストレスや負担を軽減するための職場環境の改善
- ・ 給与の増加や報酬の改善

その他、今後の働き方改革に向けて、学校や市・市教育委員会に望むこと

小学校

- 地域移行によって教員が部活動に関わる必要のある場合にどうするか
- 他地域との比較や改革の速度に対する意見
- 学校改革や地域展開の具体的な計画立案を求める声
- いろいろな取り組みについて、学校ごとに指定を受けるが、児童の実態にあっていないものや、先生方の負担がある。指導主事の先生方が学校の様子を見に来るなど、もう少し学校に寄り添ってほしい
- 調査、アンケートの精選
- 配付物及び提出物の定期連絡便の設置
- まずは学校がやるべきことだけやらせてほしい
- 授業研修会の負担軽減
- 市で統一した対応

中学校

- 学校設備の修繕や改善、予算の増加
- 空間的な広さが必要。校舎増設または新しい学校増設
- 勤務時間外に生徒が学校にいと教員は学校にいないならない
- 部活動の地域移行の形として、競技によっては人口が集まりにくいものもあるので他市町村からの生徒の受け入れを可としてほしい
- 市の学校教育の在り方として、子供に関することは何でも面倒見るというスタンスではなく、学校・家庭・地域の責任を周知徹底し本当の意味で地域と学校が協働する市になる事を心から望んでいる
- 各学校の教員は営業職の気質が強い。研究する部分は、中枢機関の職員が主体となり、営業側によい指導案を提供し、結果を中枢に送って協力する。普通の企業のように、研究と営業を分けるべき

まとめ：取組の方向性について

多

相対的な選択数

人員体制

- 「学年業務をサポートする人材」、「校務分掌をサポートする人材」の選択数が多い

業務・勤務時間の適正化

- 「必ずしも学校職員が担う必要のない業務の適正化」の選択数が多い

指導業務の改善

- 「学校行事のさらなる精選」の選択数が多い

専門性と協働の推進

- 「不登校児童生徒対応専門職との連携」、「保護者対応専門職との連携」の選択数が多い

働きやすい環境づくり

- 「平日に年休を取得しやすくするための代替職員の配置」の選択数がほかの大項目を含めても**突出して多い**

少

これからの取組の方向性について

仮説

- 人員不足が各項目の負担感につながっている
- 「必ずしも学校職員が担う必要のない業務」の量が多い
- 課題への関係機関との連携の必要性が高まりつつある



今後の予測

- 国・県の動向について
- 教員のなり手不足の継続
 - 定員内および産休育休等代替の未配置の非解消
 - 学校と教師の業務の3分類（R8.4 改訂予定）



取組

1. シャドーイング調査

業務の洗い出しを行い、負担の大きい校務を支援する人材配置を行うため

2. 人材配置の制度設計

ペーパーティーチャー等の発掘のため

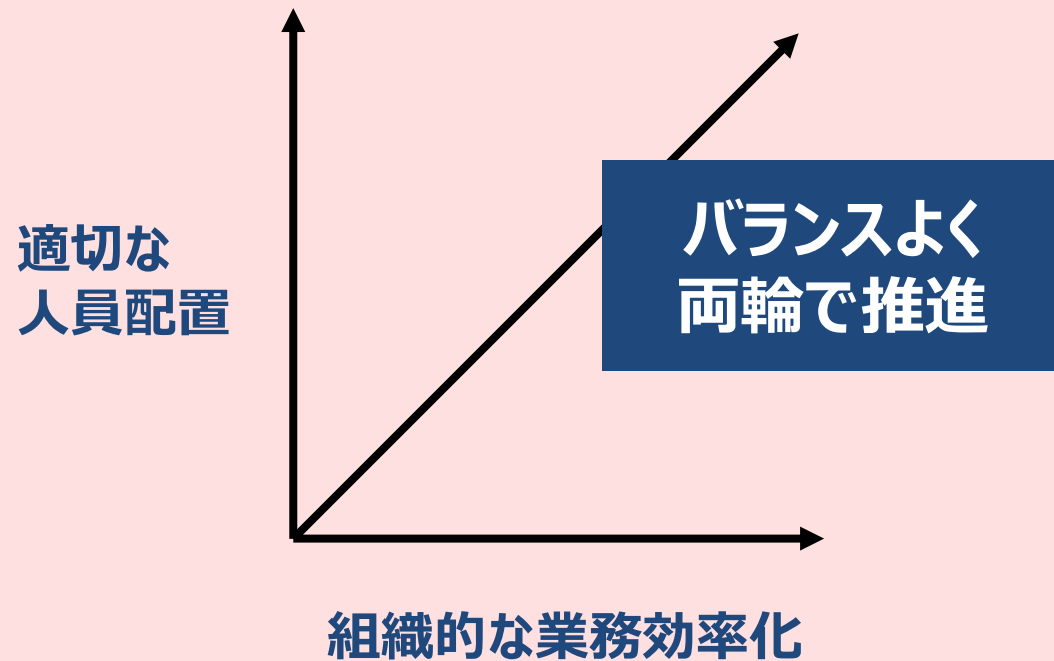
プロジェクト01

働くプロジェクト
施策①に反映

総括：教職員アンケートの結果を受けて

働き方改革の視点

・ 人員配置にクローズUP



・ 学校業務にクローズUP

